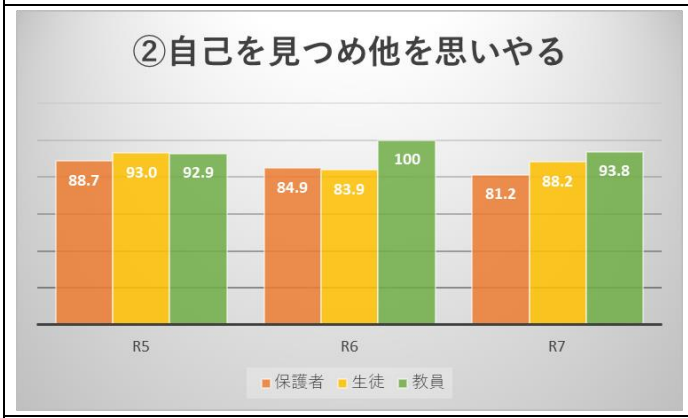
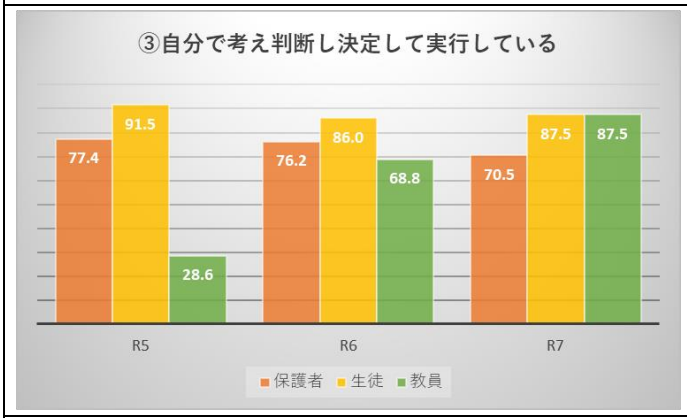
令和７年度　肥田中学校「学校評価」

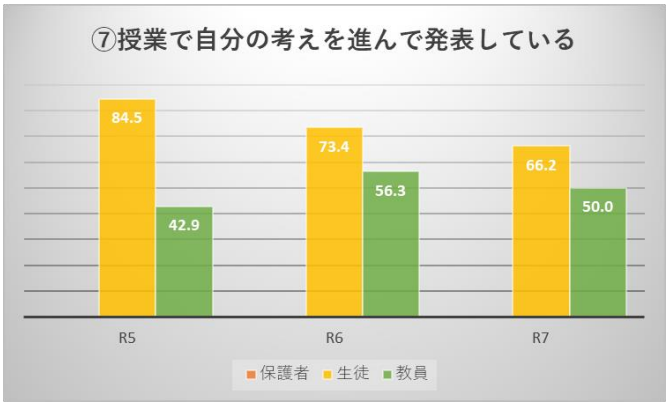
自己評価（生徒・保護者・教員アンケート）結果概要＜１２月実施＞

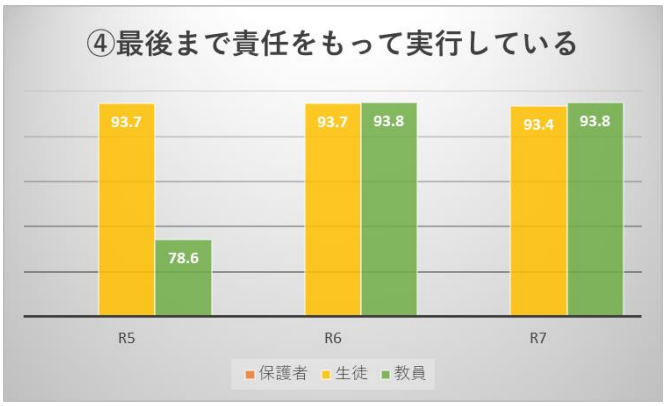
※　生徒向け設問１６項目を定め、適宜選択して保護者や教員にも問いました。項目は、経年変化を見るため、昨年度と同じとし、学校の当面する重要な教育課題と、生徒の学校生活の中で特徴的なものを取り上げました。

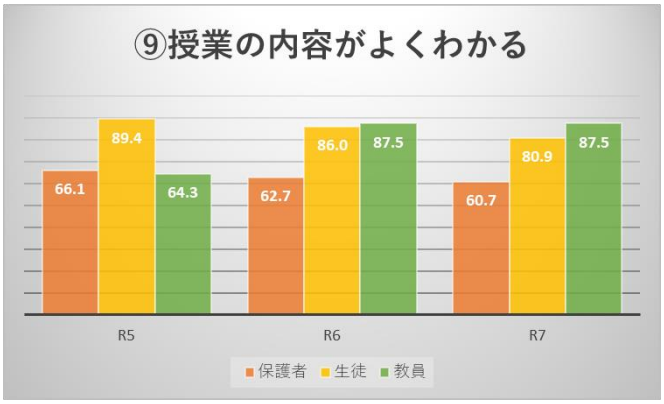
※　回答は、「４」→よくあてはまる、「３」→どちらかと言えばあてはまる、「２」→どちからと言えばあてはまらない、「１」→全くあてはまらない、として「４、３」の割合を集計し、結果の概要をまとめました。

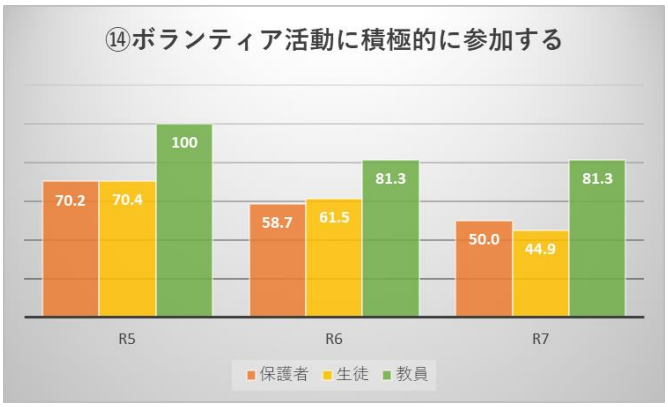


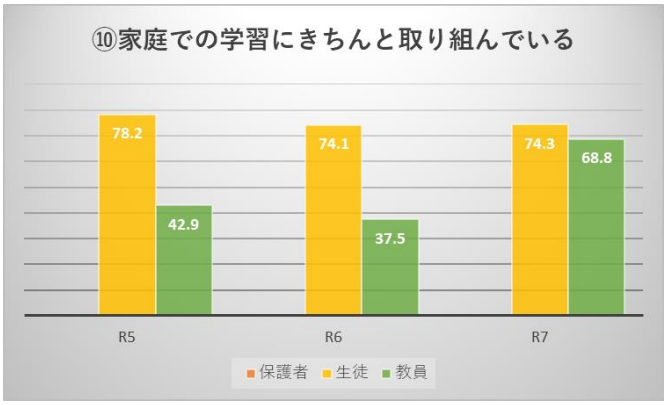


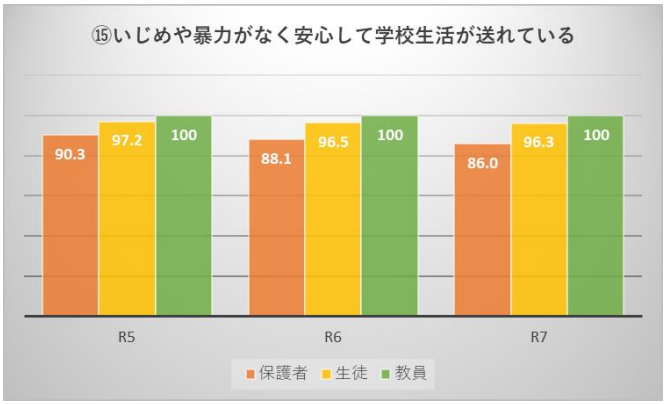


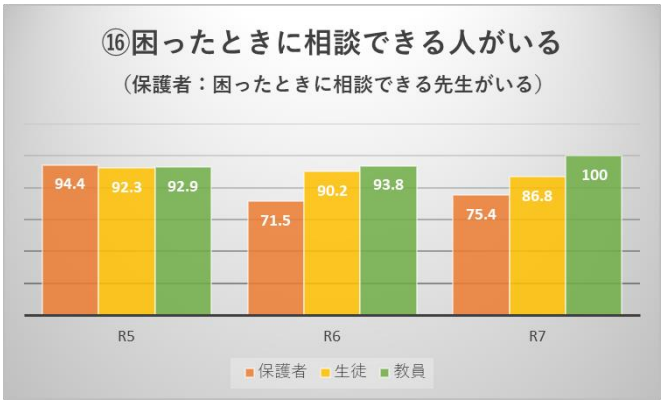


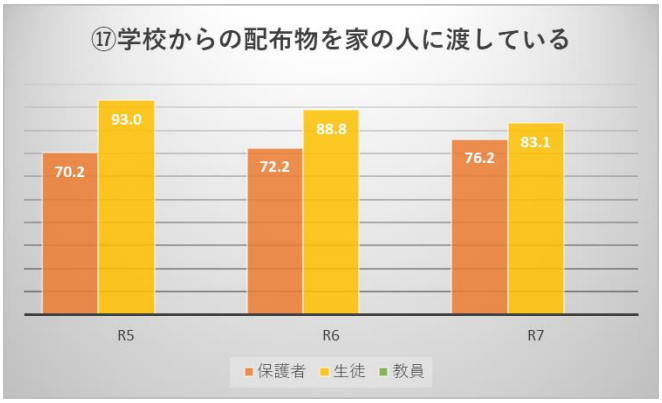


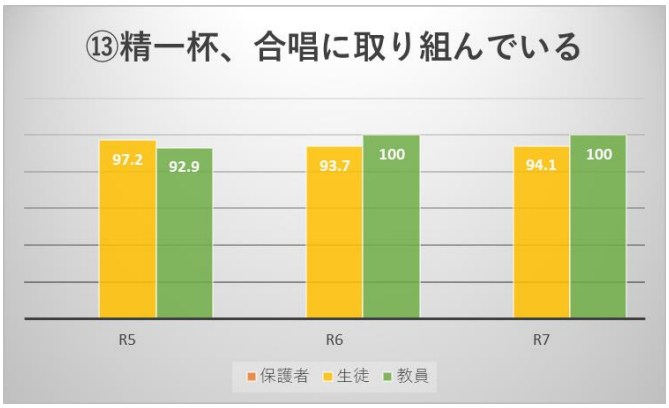












≪保護者アンケートの回収率≫

※本年度は「すぐーる」による回答

第１学年	９３．０％
第２学年	８９．３％
第３学年	８５．４％
全　　校	８６．７％

※Ｒ６回収率　９４．７％

【自己評価結果の考察】
（１）全体的に（「４」→よくあてはまる、「３」→どちらかと言えばあてはまる）の割合は高く安定している。また、多くの項目について、評価結果の傾向は、昨年度と同様の結果になっている項目が多い。

（２）生徒または教員（保護者）の評価結果が昨年度より大きくよくなっている項目は、
「【項目③】自分で考え判断し決定して実行している。」
「【項目⑩】家庭での学習にきちんと取り組んでいる。」
の２項目である。
【項目③】について
　今年度も昨年度と同様に生徒会執行部や各委員会が自分たちで考えた新たな活動を積極的に提案し、その活動が実施されることが多かった。また、各学年、学級執行部が体育大会や合唱の取組など、積極的に活動の運営や実施に関わることが増えたことにより、教員から見た結果のとらえが大きくよくなったことにつながったと考えられる。教員の自由記述による自己評価でも、「自分たちにできることを懸命に考え、動いている。」等の記述が複数見られた。昨年度の振り返りから、教師も共通理解を徹底し、運営面にも全職員が関わりながら、活動の教育効果をより高めていけるよう努めた結果であると考える。
【項目⑩】について
　例年に比べ、学習に係る提出物の提出率や遅れが少なくなっていると感じている教員が増えている。また、提出物の内容についても、個人差はあるが最後まで丁寧にやり切れているものが増えていると感じている教員もいる。それが教員から見た結果のとらえが大きくよくなったことにつながったと考えられる。反面、自由記述による自己評価には、「個人差が大きく、家庭できちんとやる習慣の生徒が少ない。」「教科担任からの学習方法指導が一層必要かもしれない。」等の記述もみられる。また、他の項目に比べ、評価の割合も低い。来年度以降、家庭と学校との連携を今まで以上に深め、生徒に家庭学習の目的を明確に伝えたり、家庭学習の量と内容を見える化したり等しながら効果的な指導方法を工夫し、家庭における自主的な学習の強化を図っていきたい。

（３）生徒の回答が、昨年度より１０ポイント以上下がっている項目は、
「【項目⑭】アルミ缶回収や地域活動など、ボランティア活動に積極的に参加している。」
の項目である。
【項目⑭】について
　ボランティア活動への積極的な参加に対する評価が年々低くなる傾向があり、今年度もボランティア活動への参加ができていないと感じている生徒が増加している現状がある。今年度生徒会の呼びかけた、「ごみ拾い」、「キャップ集め」、「空き缶回収」、などにあまり協力できなかったと感じている生徒が多かったようである。逆に地域の「花いっぱい運動」や「陶史の森まつり」、「肥田フェスティバル」等への参加率は、他校と比べると驚くほど高い現状もみられる。そのため、他校の現状を知っている教員から見た評価は、保護者、生徒の評価の割合と比較するとかなり高くなっている。これらのことから、生徒の評価が低いのは「自分たちはもっとできる」、という気持ちの表れであると捉えることができると

同時に、ボランティア活動への参加が当たり前になってきており、積極的に参加していると感じられなくなってきていることが考えられる。そのため、生徒の前向きな姿勢を大切にしつつ、過度な負担にならないように、ボランティアを行っている生徒たちを学校や地域の大人が大いに認め、生徒一人一人に自己有用感をもたせていく意識を忘れないようにしていかなければならないことを再確認したい。この項目については、学校関係者評価委員会の中で、「先生方も、仕事ではなくボランティアとして地域の行事に参加をし、生徒に姿で示していくことも必要である。」との意見もいただいた。教師にも家庭や私生活において様々な事情があるため、負担にならない程度に持続可能な形で地域活動への参加を今後考えていく。また、地域としても、子どもたちが積極的に参加していけるような活動を考えていく必要があるという意見もいただいた。生徒や家庭への啓発を丁寧に行い、自分のできる範囲で気軽に活動に参加できる雰囲気づくりを全校体制で心がけていきたい。

（４）教師（保護者）の回答が、昨年度より１０ポイント以上下がっている項目は、
「【項目⑭】アルミ缶回収や地域活動など、ボランティア活動に積極的に参加している。」
の項目である。
【項目⑭】について
（３）に同じ

（５）今後も、特に注意していかなければならないと感じている項目は、
「【項目⑦】授業で自分の考えを進んで発表している」
「【項目⑮】いじめ暴力がなく、安心して学校生活を送ることができている」
「【項目⑯】困ったときに相談できる人がいる」
の３項目である。
【項目⑦】について
昨年度と同様の傾向ではあるものの、２年前と比較すると、生徒の評価した数値が大きく下がっている。また、評価の数値も全体的に低い。教員の視点から見ると、生徒の授業に向かう姿勢は大変よく、教師もそれに応えるため一生懸命教材研究を重ねている。自由記述による自己評価でも、「まじめに取り組む生徒が多い。」等の記述が多い。反面、「個人差があり、授業に向かう姿勢が少し気になる。」という記述もある。生徒たちのとらえでも、発表できていないと感じている生徒も半数近く存在する。今まで以上に生徒の意見や挙手の姿勢をその都度評価し、生徒自身に自分たちの頑張りを自覚させながら自己肯定感を高めていけるような指導・支援を心がけていく必要があると考える。
【項目⑮】について
“あてはまらない”“どちらかと言えばあてはまらない”に５名、の生徒が回答していることに着目する。全体から見れば少数ではあるが、面談、アンケート等を行い事実の確認、把握し、それをもとにして解消を図っている。学校関係者評価委員会でも、「この項目に当てはまらないと答えていること自体が、生徒からの SOS であると考えられる。」との意見もいただいた。今後もこれまで以上にアンテナを高くし、生徒たちの「変化」を見逃さず対応していく必要がある。
【項目⑯】について

“あてはまらない”“どちらかと言えばあてはまらない”に１８名の生徒が回答している。昨年度と同様に、生徒が安心して過ごせる人間関係作り、信頼関係づくりができているかどうか、教師や保護者は常に確認していかなければならない。また、生徒たちに、人に相談することの価値を理解させたり、相談の仕方を具体的に教えたりする指導をしていく必要もある。今後も校内の相談体制や、外部の相談機関等も随時、周知を図っていく。

今後も、生徒たちが、人とのつながり、歴史文化自然とのつながりを大切にし、積極的に「地域づくり」へ参画できるように、学校と保護者の連携を強めていくだけでなく、地域の方々や学校運営協議会等の力添えをいただきながら、心身ともに健康な子供たちを育んでいきたい。